28　　好き者のはやとちり

文法　連用形接続の助動詞まとめ

　　読解　行動の理由をつかむ

新傾向　異本の同場面との相違点をつかむ

今は昔、といふ者ありけり。歌を詠み、源氏・などをうかべ、花の下、月の前と①好きありきけり。かかる好き者なれば、左大臣、「大内の花見んずるに、必ず」とはれければ、通清、「㋐めでたき事にあひⓐたり」と思ひて、やがてに乗りてゆくほどに、あとより車二三ばかりして人のれば、「疑ひなきこの左大臣のおはする」と思ひて、のをかきあげて、「㋑あなうたて、あなうたて。とくとくおはせ」と、扇を開きて招きけり。はやう関白殿のものへおはしますなりけり。招くを見て、御供の、馬を走らせてかけ寄せて、②車の後の簾を刈り落としてけり。その時、通清慌て騒ぎて、前よりび落ちけるほどに、ⓑ落ちにけり。いといと不便なりけりとか。好きⓒぬる者は少し③をこにもありけるにや。

語注

土佐判官代通清＝源通清。

後徳大寺左大臣＝藤原。

関白殿＝藤原。関白は、天皇を補佐して政務を執り行う重職。

随身＝貴人の身辺に付き従う人。

基本古語

不便なり（形動ナリ）＝不都合なさま。具合の悪いさま。

【原文】

　今は昔、土佐判官代通清といふ者ありけり。歌を詠み、源氏・狭衣などをうかべ、花の下、月の前と好きありきけり。かかる好き者なれば、後徳大寺左大臣、「大内の花見んずるに、必ず」と誘はれければ、通清、「めでたき事にあひたり」と思ひて、やがて破車に乗りてゆくほどに、あとより車二三ばかりして人の来れば、「疑ひなきこの左大臣のおはする」と思ひて、後の簾をかきあげて、「あなうたて、あなうたて。とくとくおはせ」と、扇を開きて招きけり。はやう関白殿のものへおはしますなりけり。招くを見て、御供の随身、馬を走らせてかけ寄せて、車の後の簾を刈り落としてけり。その時、通清慌て騒ぎて、前より転び落ちけるほどに、烏帽子落ちにけり。いといと不便なりけりとか。好きぬる者は少しをこにもありけるにや。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

通清という［　　　　　　］がいた。ある時左大臣に［　　　］を見ようと誘われたが、道中、［　　　　　　］を［　　　　　　］と間違えたため、［　　　　　　］の随身に車の［　　　］を刈り落とされ、醜態をさらした。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（㋐は終止形でよい）。〈3点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓒについて、

(1)　ⓐ・ⓒを、文法的に説明せよ。〈2点×2〉

　ⓐ〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

(2)　ⓑを品詞分解し、それぞれ文法的に説明せよ。〈6点〉

　　　落　　　ち　　　に　　　け　　　り

問四　［チェック問題］連用形接続の助動詞まとめ

傍線部の助動詞の文法的意味に留意して、現代語訳を完成させよ。〈2点×3〉

1　さるべき契りこそおはしましけめ。（源氏物語）

　そうなるはずの縁で［　　　］。

2　みなとりどりにこそありしかども、…（平家物語）

　皆それぞれに［　　　］けれども、…

3　父のおはしまさん所へぞ参りたき。（平家物語）

　　　父がいらっしゃるところへ参り［　　　］。

1〔　　　　　　　〕　2〔　　　　　　　〕

3〔　　　　　　　〕

問五　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈4点〉

ア　自分が楽しいと思うことだけをしていた。

イ　暇にまかせてあちこち歩きまわっていた。

ウ　風流なことばかりして過ごしていた。

エ　女性と語らい合うことを楽しんでいた。

〔　　　〕

問六　傍線部②について、

(1)　「刈り落としてけり」を現代語訳せよ。〈4点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

(2)　「御供の随身」が「車の後の簾を刈り落とし」たのはなぜか。次の文の

空欄に合う語句を、1は本文中から抜き出して、2は十五字以内の言葉で答えよ。〈1=3点、2=6点〉

通清が牛車の主を勘違いして、［　1　］で手招いたために、［　2　］から。

1〔　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部③「をこに」の説明として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　高官である左大臣から花見に誘われたのに、壊れた牛車で出かけてしまう無頓着なところ。

イ　左大臣からの誘いを名誉に思うあまり、舞い上がって失敗を招くという思慮に欠けた性格。

ウ　いくら無礼を働いたからといって、牛車から落として烏帽子を脱がすという非道な仕打ち。

エ　不慮の事態が起こったときに、たちまち取り乱して失態をさらしてしまう情けない心構え。

〔　　　〕

問八　次に挙げる会話は、本文についての授業中の会話である。後の生徒の会話のうち、適当でないものを一つ選べ。〈5点〉

教師―通清のはやとちりは『十訓抄』の同場面では次のように描かれています。二つの作品を読み比べてみて、通清についての描き方にどのような違いが見つかるでしょうか。話し合ってみましょう。

【資料】

　この道清、ある春のころ、後徳大寺左大臣、使いをやりて、「の花、見むずるに、必ず」とはれければ、うれしきことと思ひて、れ車に乗りて行くほどに、車二三両にて、人の来れば、疑ひなく、「この左大臣のおはするぞ」と思ひて、のをかき上げて、扇を開きて招きけり。はや関白殿、ものへおはしけるなり。これを見て、御、馬をはやめ寄せて、車の尻の簾をやり落としけり。道清、前より転び落ちて、走りけるほどに、落ちにけり。

　好きぬる者は、かくをこの気のすすむにや。

（注）　道清＝本文の「通清」と同一人物。

ア　生徒Ａ―通清が後徳大寺左大臣から花見に誘われた時に、『宇治拾遺物語』では「めでたき事にあひたり」と思い、『十訓抄』では「うれしきこと」と思っているね。このことから通清がいかに喜んで牛車に乗ったかがわかるね。

イ　生徒Ｂ―そうだね。でも、『宇治拾遺物語』では、「やがて破車に乗りてゆくほどに」とあるように、後徳大寺左大臣が来るのが待ちきれずに自分から家まで迎えに行っているよ。花見に誘われた時の喜びが『宇治拾遺物語』のほうが一層強調されていると読み取れるね。

ウ　生徒Ａ―ほかには、「前より転び落ちて、走りけるほどに、烏帽子落ちにけり」とあるように、『宇治拾遺物語』よりも『十訓抄』のほうが、通清の慌てふためく様子の表現が丁寧だね。だから、『十訓抄』の通清のほうが、失態が強調されていると考えられるね。

エ　生徒Ｂ―『宇治拾遺物語』も『十訓抄』もどちらも共通して、は通清を愚かな人物だと描いているね。でも、「少しをこにもありけるにや」という表現の、『宇治拾遺物語』のほうが、『十訓抄』の「をこの気のすすむにや」より通清への同情が含まれていると読むこともできるね。

〔　　　〕

【解答】

問一　好き者／花／関白殿／左大臣／関白殿／簾

問二　㋐＝すばらしい　㋑＝ああひどい〈3点×2〉

問三　(1)　ⓐ＝完了の助動詞「たり」終止形

ⓒ＝完了の助動詞「ぬ」連体形〈2点×2〉

(2)　落ち（タ行上二段活用動詞「落つ」連用形）／に（完了の助動詞「ぬ」連用形）／けり（過去の助動詞「けり」終止形）〈6点〉

問四　1＝いらっしゃったのだろう

　　　2＝あった

　3＝たい〈2点×3〉

問五　ウ〈4点〉

問六　(1)　 刈り落としてしまった。〈4点〉

(2)　1＝扇〈3点〉

　　2＝身分をわきまえず無礼だと怒った（15字）〈6点〉

問七　イ〈6点〉

問八　イ〈5点〉

【現代語訳】

今となっては昔のことだが、土佐の判官代通清という者がいた。歌を詠み、源氏物語や狭衣物語などを暗唱し、花の下、月の前へと（花や月を眺めに出かけて）風流なことばかりをして過ごしていた。このような風流人であるので、後徳大寺左大臣が、「内裏の花を見るつもりだから、必ず（来なさい）」とお誘いになったので、通清は、「すばらしいことに遭遇した」と思って、すぐに傷んだところのある牛車に乗って行っていると、後から車を二三台ほどで人が来るので、「まことのこの左大臣がいらっしゃる」と思って、後ろの簾をかきあげて、「（誘っておいて私より遅れるとは）ああひどい、ああひどい。早く早くいらっしゃれ」と、扇を開いて（その扇で）手招きをした。なんとまあ（関白殿が）あるところへお出かけになるようであったよ。（通清が）手招きするのを見て、（関白殿の）御供の随身は、馬を走らせて駆け寄せて、車の後ろの簾を刈り落としてしまった。その時、通清は慌て騒いで、（牛車の）前から転げ落ちたので、（通清の）烏帽子が落ちてしまった。たいそう都合の悪いことであったことよとか（いうことだ）。風流であった者は少し愚かでもあったのだろうか。

【資料】現代語訳

　この通清に、ある年の春、後徳大寺左大臣（＝藤原実定公）が、使いを遣わして、「内裏の桜を見物に行こう（と思っています）、必ず（ご一緒に）」とお誘いになったので、うれしいことと思い、おんぼろの牛車に乗って出かけて行っていると、（後ろから）車が二、三両で、人がやって来るので、間違いなく、「この左大臣（＝実定公）がいらっしゃったのだ」と思って、（車の）後ろの簾を巻き上げて、扇を開いて手招きをした。じつは（後ろの車は）関白殿が、どこかへお出かけになる途中であったのだった。これを見て、（関白殿の）御随身は、（ただちに）馬を走らせて近づき、車の後ろの簾を引き落としてしまった。（そのはずみに）通清は、前のめりに転げ落ち、（車は前に）走り行き、（被っていた）烏帽子は（脱げ）落ちてしまった。

　風流に心を奪われる数寄者たちは、こんな愚かしい気質も人一倍強いのかもしれない。

【補充問題】

問１　「烏帽子」（７～８行目）とは、どのようなものかを答えよ。

問２　「いといと不便なりけり」（８行目）とあるが、具体的には通清のどのようなことを指しているのか。適当なものを二つ選べ。

ア　古びた牛車で出かけたこと。

イ　牛車の速さを競おうとしたこと。

ウ　御供の随身に気づかなかったこと。

エ　牛車の簾を刈り落とされたこと。

オ　牛車の前から転げ落ちたこと。

カ　烏帽子が脱げてしまったこと。

【補充問題解答】

問１　成人男子の、日常のかぶりもの。

問２　オ・カ